

ICPSR国内利用協議会 統計セミナー2022

2022年7月

ICPSR国内利用協議会

以下の要領でICPSR国内利用協議会統計セミナー2022を開催いたします。多数の方の参加をお待ちしております。

- 開催日時：2022年8月30日(火)～31日(水)の2日間
- 会場：オンライン開催（ウェビナー使用予定／開催校：慶應義塾大学）
- プログラム
1部：10:30～12:00、2部：13:00～14:30、3部：14:50～16:20
※参加申込後にお送りするURLにて、10時10分から10時30分までの間にご入室ください。
- コース概要：
8月30日 【入門編】 基礎的なデータ分析の考え方と問題点
講師：中山真緒（慶應義塾大学）
8月31日 【応用編】 パネルデータを用いた実証分析
講師：山本勲（慶應義塾大学）
- ・原則、当日参加です。申込み後に受講をキャンセルされる場合はハブ機関までご連絡ください。
- ・セミナーの受講は、パソコン、インターネット接続環境、Zoomアプリケーションのインストールなど事前のご準備をいただける方に限ります。
- ・セミナーは講義形式で行われます。
- セミナーの目的：計量分析結果を掲載している学術論文の結果を、的確に理解できるようにする。初等統計既習者については、さらなる学習のための見取り図を提供する。
- 受講対象者：社会科学系の教員、職員、大学院生、ポスドク研究員など。
- 参加資格：ICPSR国内利用協議会加盟校の教職員・大学院生・開催校学部生（開催校以外の学部生と休学中の学生は対象外です）。
- 参加費：無料。
- 申込受付期間：2022年7月19日(火)～8月15日(月) ※早めの申込をお願い致します。
- 申込方法：申込は下記のフォームより申請をお願いいたします（GoogleFormへ移動します）。
[【申込フォーム】](#) ※フォームからの申請ができない場合には[ハブ機関](#)までご連絡ください。

共催：

慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター、慶應義塾大学三田メディアセンター、ICPSR 国内利用協議会

後援：

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター ICPSR 国内利用協議会ハブ機関

8月30日(火)【入門編】基礎的なデータ分析の考え方と問題点

中山 真緒 講師

本セミナーでは、実証分析を行う際に必要となる計量経済学の基礎を学ぶことで、データ分析の基本的な考え方を理解し、適切な手法を用いてデータを分析できるようになること、分析結果を正しく解釈できるようになることを目指します。入門編では、実証分析の具体例を紹介しながら、最小二乗法・最尤法までの内容を扱います。なお、学部レベルの初歩的な統計学の知識を前提に、『実証分析のための計量経済学』（山本勲、中央経済社）に沿って解説を行います。

(1) データ分析の考え方—因果関係を捉えることの難しさ

第1部では、計量経済分析の標準的な流れを説明し、データの種類やモデルの設定、推定や仮説検定について学びます。計量経済学の手法を用いることで、「AはBに影響するのだろうか？」という疑問に答えることができますが、AとBの関係性や因果性を明らかにすることは簡単ではありません。どのような場合に因果関係を捉えることが困難になるのか、具体例を紹介しながら解説します。

(2) 最小二乗法の概念としくみ

第2部では、最小二乗法による推定のしくみを解説し、どのような条件のもとで最小二乗法を用いた推定が望ましい推定となるのかを学びます。また、重回帰分析を行っている実証分析の推定結果をもとに、推定結果の解釈の仕方について説明します。

(3) 最小二乗法の問題点と最尤法

第3部では、最小二乗法による推定が適切な推定にならないケースを紹介し、どのような対処が必要なのかを解説します。また、最尤法の考え方を学び、プロビットモデル・ロジットモデルによる推定と推定結果の解釈の仕方について説明します。

【講師略歴】

氏名：中山 真緒（なかやま まお）

専門：労働経済学

研究テーマ：女性労働、子どもの健康

現職：慶應義塾大学経済学部・特任助教

最終学歴：博士（経済学）

【最近の業績】

1. 中山真緒「保育所がもたらす母親の就業促進効果—認可保育所が提供するサービスに注目して」、『日本労働研究雑誌』、2020年6月号（No.719）、pp.56-73
2. Mao Nakayama & Midori Matsushima “Age-related changes in the effect of birth weight on child development: findings from a Japanese Longitudinal Survey”, *The Japanese Economic Review*,

Published online: 07 April 2021

3. 石井加代子・中山真緒・山本勲「コロナ禍初期の緊急事態宣言下における在宅勤務の実施要因と所得や不安に対する影響」、『日本労働研究雑誌』、2021年6月号（No.731）、pp.81-98

【講義参考資料】

- ・山本勲（2015）『実証分析のための計量経済学』中央経済社

8月31日(水)【応用編】パネルデータを用いた実証分析

山本 勲 講師

本セミナーでは、実証分析を行う際に必要となる計量経済学の基礎を学ぶことで、データ分析の基本的な考え方を理解し、適切な手法を用いてデータを分析できるようになること、分析結果を正しく解釈できるようになることを目指します。応用編では、実証分析の具体例を紹介しながら、パネルデータ（追跡データ）を用いた実証分析手法を扱います。なお、本統計講座の基礎編の内容を前提に、『実証分析のための計量経済学』（山本勲、中央経済社）に沿って解説を行います。

(1) パネルデータの特徴と分析モデル

第1部では、パネルデータの種類・長短所・有用性・活用方法などについて、具体例を交えながら解説します。さらに、固定効果モデル・変量効果モデル・CREモデルといった分析モデルの仕組みや推計手法、推計結果の解釈の仕方などを解説します。

(2) パネルデータを用いた因果推論手法

第2部では、パネルデータを用いて因果関係を特定する方法、あるいは、逆の因果性が懸念される際の対処方法を扱います。具体的には、固定効果モデルや操作変数を用いた2段階推計などを用いることで、どういったタイプの逆の因果性にどのように対処できるかを解説するとともに、推計手法やモデル選定の方法、推計結果の解釈の仕方などを解説します。

(3) パネルデータを用いた政策評価手法

第3部では、パネルデータを用いて政策やプログラムなどを定量的に評価する分析手法を扱います。具体的には、DD分析（差の差の分析）、マッチング推計、傾向スコアを用いた推計などを解説するとともに、推計手法やモデル選定の方法、推計結果の解釈の仕方などを解説します。

【講師略歴】

氏名：山本 勲（やまもと いさむ）

専門：労働経済学

研究テーマ：働き方、健康経営、技術革新と労働

現職：慶應義塾大学商学部教授、パネルデータ設計・解析センター長

最終学歴：博士（経済学）

【最近の業績】

1. “Impacts of anxiety and socioeconomic factors on mental health in the early phases of the COVID-19 pandemic in the general population in Japan: A web-based survey” (co-authored with Miwa Nagasu and Kaori Muto), *PLoS ONE*, 16(3), e0247705, 2021
2. 「コロナ禍初期の緊急事態宣言下における在宅勤務の実施要因と所得や不安に対する影響」（石井加

代子・中山真緒との共著)、『日本労働研究雑誌』、2021年6月号 (No.731)、pp.81-98

3. “Job tasks and wages in the Japanese labor market: Evidence from wage functions” (co-authored with Toru Kobayashi), *Journal of the Japanese and International Economies* ,58, 2020

【講義参考資料】

- ・山本勲 (2015) 『実証分析のための計量経済学』中央経済社